



今年の赤堀歴史民俗資料館のひな人形の収蔵資料展は、ガラスケースに入った「浮世人形・舞踊人形」を約100点展示しています。現代では飾る方は少なくなりましたが、昭和期に脇役的に飾られていたこの人形も、今回は主役です。本紙では、その中でも、汐汲と浅妻を紹介します。



昭和26年

しおくみ

舞踊人形 汐汲

烏帽子と汐汲桶を担ぐ汐汲人形は、持っていた方も多いはず。歌舞伎舞踊の汐汲は、戦前から舞踊人形として売り出され、人気を博しました。海女の姉妹は須磨の浦(神戸市)に流された在原行平に恋をしますが、都へ帰った行平は「迎えをよこす」といって、死んでしまいます。悲しみに暮れる姉妹が、行平を想いながら舞うストーリーです。

3月16日 まで



昭和37年

あさづま

舞踊人形 浅妻

鼓や扇をもって舞う姿の浅妻も、定番の舞踊人形です。琵琶湖の港町朝妻の渡し船を浅妻船といいます。歌舞伎舞踊の浅妻は、月夜の晩に浅妻船に乗り、鼓を打ちながら優雅に舞い踊る娘のストーリーです。白拍子姿の美しい娘は、男性との恋愛を語りながら優雅に舞います。しかし、いつしか琵琶湖に月影がさし、娘は名残惜しみながら舞い納め、月影の中に消えていきます。

ガラスの箱のおひなさま

収蔵資料展

伊勢崎市赤堀歴史民俗資料館

休館日：月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)・年末年始

開館時間：午前9時～午後5時(入館は4時30分)

群馬県伊勢崎市西久保町二丁目98

電話 0270-63-0030 FAX 0270-63-0087 Email: siryokan@city.isesaki.lg.jp 入館無料